

課題作文を書きこく

1 課題作文の内容

課題作文というのは、あらかじめ課題（テーマ）が決められており、それについて書く作文である。試験などの場合には、字数が制限（宮城県高校入試作文の場合、一六〇字〜二〇〇字）されたり、段落の構成や内容などに条件をつけられたりすることが多い。また、限られた時間の中で、自分の考えをまとめて書き終えなければならない。なお、課題としては、次のような傾向に分類される。

- A ある言葉や文章についての考えや感想を書くもの
- B 立場を決めて考えや意見を書くもの
- C 図や写真、グラフ、表から読み取って書くもの

2 書き方の手順と留意点

(1) 課題を正確にとらえる

- ◇ 与えられた課題をよく読んで、正しく理解し、大まかな内容を考える。

(2) 条件（注意・指示）を確認する

- ◇ 字数は、与えられた数の最大限に近づけるようにする。（字数の多いほうが、内容を濃いものにできる）
- ◇ 段落構成に関する指示や、内容に関する条件（体験と意見に分けるなど）をきちんと確認する。

〔Aの場合〕

- ・ 課題に沿った具体例や体験を見つける。
- ・ 体験から導き出された考えや感想をまとめる。

〔Bの場合〕

- ・ 立場を明確にした（例えば、「賛成」「反対」など）表現を使い、理由をはっきりさせて書くこと。

〔Cの場合〕

- ・ 図やグラフから、その特徴を正確に読み取り、それに対する意見や感想を区別して書くこと。
- ・ 他教科（理科・社会など）でも学習する機会があるので、図やグラフを読み取る力を意識してつけること。

(3) 構想をメモする

- ◇ 自分が書こうとすることの要点を、箇条書きにして並べてみる。
- ◇ どのような順序で書いていくのか、構想を考えてメモする。

(4) 執筆

- ◇ メモの内容をもとに、「書き出し」、「結論」に注意を払いながら、本文を書いていく。
- ◇ 読む人にとって、言いたいことを中心（結論）がはっきりわかる文章にする。
- ◇ まちがった言葉つかいや、誤字・脱字に注意する。文字は丁寧に書く。
- ◇ 文章中に具体的な例や体験を盛り込むと、説得力が増す。誰もが書くような文章にならないためにも、自分の心の動きを書き入れることを心がける。

(5) 推敲……確認

- ◇ 書きあげた文章をもう一度読み直して確かめる。
- ◇ 試験においては、限られた時間内で書き終えなければならないので、何度も練習して書き慣れておくことが大切である。

3 評価の観点

- 与えられた課題と文章の内容にずれはないか。
- 条件が守られているか。(字数・内容に関する指示等)
- 段落構成は適切か。
- 結論が、はっきり、わかりやすく書かれているか。
- 文体が、敬体(です・ます体)か、常体(だ・である体)に統一されているか。
- 適切な表現になっているか。(一文が長すぎないか。話し言葉が入っていないか。)
- 読点の打ち方が適切か。(多すぎたり少なすぎたりしていないか。)
- 表記は正しいか。(漢字の誤字・誤用がない。送りがなの誤り・脱字がない。くせ字やマンガ字がなく、文字が丁寧である。ひらがなを多用していない。)
- 原稿用紙の使い方は正しいか。(段落の始めは一マス空ける。句読点などは行の最初に書かない。)